

令和3年度笠岡市まちづくり活動報告会の結果報告

1 日 時 令和4年1月22日（土）13：30～15：30

2 場 所 笠岡市民会館ホール・ホワイエ

3 主 催 笠岡市（協働のまちづくり課）

4 目 的 笠岡市では、住民主体のまちづくりを推進するため、地域活動を行う町内会や公民館など、様々なネットワークでつながる住民自治組織「まちづくり協議会」の運営や活動に支援を行っている。

報告会を通じて、「まちづくり協議会」とは何か、その取り組みをわかりやすく紹介し、市民に広く知ってもらい、地域のまちづくり活動について考える機会となるよう開催する。

5 出席者

<笠岡市> 小林市長，松浦副市長

<来 賓> 笠岡市議会 議長 藤井義明 氏

<発表者>

①金浦地区まちづくり自治協議会

「地域防災力の向上により災害時の逃げ遅れゼロを目指して」

発表者 防災部会長 高橋邦彦氏

②駅前コラボ in 笠岡

「駅前コラボ in 笠岡の過去，現在，未来」

発表者 駅前コラボ in 笠岡 榎平一平氏 キムジンホ氏

③地域おこし協力隊

「自走する地域を目指した学びの場づくり」

発表者 寺田伊織氏

<コメンテーター>

ノートルダム清心女子大学 現代社会学科教授 二階堂裕子 氏

笠岡市市民活動支援センターまちづくりアドバイザー 小川孝雄 氏

6 来場者

136名（報道発表：約150名）

まちづくり協議会：21地区79名

地域おこし協力隊：1名

市議会議員：5名

その他一般参加：17名

（参加者の主な所属団体名：浅口市，新見市，社会福祉協議会，

市民活動支援センター，エブリイハート，報道機関ほか）

市職員：34名（地域担当職員：22名，その他職員：12名）

7 事例発表の概要

（1）金浦地区「地域防災力の向上により災害時の逃げ遅れゼロを目指して」

- ・防災部会の高橋氏，藤井氏が登壇。
- ・冒頭で，金浦地区まちづくり自治協議会の概要（構成，部会数，金浦地区について）を説明し，設立から10年間の防災部会の主な取組内容や活動の振り返りについて発表。
- ・今後，南海トラフ地震や西日本豪雨クラスの水害に対応できるような支え合いの仕組み作りや各地区の自主防災組織との連携強化，近隣地区との相互支援体制づくりを目指すため，これまでの防災部会の体制をR3.4月から見直した。
- ・令和3年度に，岡山県の地区防災計画等作成モデル地区に指定され，県や市，金浦地区社協支部，公民館などの各種団体が連携し，計画策定を実施している。
- ・「災害は待ったなし！！」のスローガンのもと，コロナ禍でも計画策定に取り組んでおり，地域内の防災関係団体が金浦まち協の防災部会を中心に協働して活動を行っていることを強調された。
- ・計画策定も1つの過程であり，今後は策定された計画をもとに活動を開始していくことが大切。また，令和3年度に完成する金浦地区防災計画も定期的に訓練や部会での話し合いを重ねたうえで見直しを行い，現状に即した計画へ更新していく。
- ・これらの活動にまち協の防災部会が大きな役割を担っており，地域内の多様な主体や行政との横串をさす役割を担っている。

（2）駅前コラボ in 笠岡

「駅前コラボ in 笠岡の過去，現在，未来」

- ・駅前コラボ in 笠岡の過去（事業開始の経緯，これまでの活動内容など），現在（今年度

の取組内容、コロナ禍での活動について、現在抱えている問題点など)、未来(今後の事業方針)について代表の榊平一平氏、キムジンホ氏が登壇・発表。

- ・(過去) 2017年、笠岡高校の地域学においての学生からの「駅前がさみしい」という発言から「駅前の賑わい創出」に向けて活動を開始、駅前にイルミネーションを設置しようとスタートした。笠岡市内5カ所の高校の生徒と笠岡市民、笠岡商店街が協力して笠岡駅前と笠岡商店街を活性化する目的で「駅前コラボ in 笠岡」が2018年に設立された。活動の参加者も2018年77名、2019年165名、2020年321名と順調に増えてきた。2018年には点灯式と併せて駅前クリスマスコンサートも実施した。
- ・(現在) 2021年の活動は新型コロナの影響でオンラインでの会議が増えるなど、これまでとは違った形式での活動開始となったが、2020年を大きく上回る464名の参加者により事業を実施した。団体が抱える問題として、新しい学生の確保、団体構成員の高齢化が挙げられる。新しい学生の確保に向けては、学生が大学へ行くと参加が難しくなることから、活動の記録を残したり、マニュアルを作成する、また中学生から事業に関われるようにするなど、切れ目なく活動に関われる学生の確保に取り組んでいる。また、高齢化の対策として、団体の活動参加はいつでもだれでも、長期でも短期でも参加できることを今後も呼びかけていく。
- ・(未来) この活動を通して市内の学生と社会人、地域の方が「つながる」こと、学生が社会人になっても笠岡のことを思い出す、他地域で笠岡の良さを伝える人材になることなどを目指している。また、将来的にも本事業が継続されることが、笠岡に帰ってきたときにイルミネーションを見に行こう、子どもに見せようという駅前を訪れるきっかけになる活動にした。今後も持続して活動できるようメンバーを集めて、独立した事業となれるよう金銭的な課題の解決、学生たちが自主的に活動に取り組めるような仕組み作りに注力していく。

(3) 地域おこし協力隊 寺田伊織 氏 「自走する地域を目指した学びの場づくり」

- ・理念は僕が1人で頑張るよりも10人で頑張るほうがいい、10人が継続的に頑張る仕組みを作るほうがいい。
- ・みんなの自習室はくし・・・非認知能力、EBE(科学的な根拠に基づいた教育)、IoTをもっと積極的に活用。出張自習室、とくら邸でオンラインで各所と繋いだ勉強方法の活用や神島外公民館でスタンディング学習など試しながらやっていたが、これをイベント的なスポットでなく毎日やっていったほうがいいという考えで始めた。
- ・これらの「学ぶスキル」を地域活性化に繋げたい、という思いから神外革命会議を立ち

上げた。いきなり子どもたちに地域活性化を考えましょうというのではなく、子どもたちがやりたいことを地域活性化につなげようという仕組み。自分たちのエゴを、好きなことをやりながら地域活性化に繋げる。神島外浦の有志の小中学生・高校生を集めて、子どもたちの自由な発想を実現し、自分たちの地域をよりよくしていくというコンセプト。SNS班、フリマ班、マイクラ班の3つで活動している。

- ・フリマ班・・・寺田氏はほぼノータッチ。子どもたちだけで企画段階から考え、地域の大人たちがサポートし活動をしている。これまで2回活動したが、この形こそまさに「自走する」地域活動である。それだけでなく、自分たちで商品を作りたいという発想が生まれ、耕作放棄地の活用にも取り組んでいる。
- ・マイクラ班・・・ゲームが好きな子どもたちが、ゲームを通じて神外をPRする動画を作った。youtubeで「神外革命会議」を検索してください。
- ・SIIP・・・神外革命会議は内側でどうやって内部の資源を循環させていくかを考えて活動している取組だが、外部から新しい考えやスキルを取り入れていこうという考え。スキルがあったり何かにチャレンジしたいという大学生や高校生を集めて、そこに個人や企業からの課題案件・依頼・調査依頼が来る。そこに対してプロや協力企業からのサポートを受けて成果を出していく。その中で自分たちのスキル認識や自己認識を深めていくというスキーム。フリーマガジンの発行なども行っている。
- ・今後、無人雑貨店「るうと」1/23OPEN
クリエイティブな活動（ハンドメイドアクセ、絵を描いている）をしていて、売ってみたい、ビジネス検証したい、チャレンジしたい高校生・大学生・障がい者が活動できる場所
- ・地域の若者が自分の力を信じて輝ける未来をつくる